松阪漁協女性部の活性化に取り組んで

松阪漁業協同組合女性部
部長　　前川　さつみ

1．地域の概要

松阪市は、平成 17 年の合併により、人口約 17 万人となるとともに、県内で 2 番目に面積が広い市となった（図 1）。伊勢平野の中央部に位置し、南西部は奈良県境となる台高山脈などの山地が連なり、東は伊勢湾に接している。気候は比較的温暖である。また、高級ブランド和牛・松阪牛の生産地として全国に知られている。

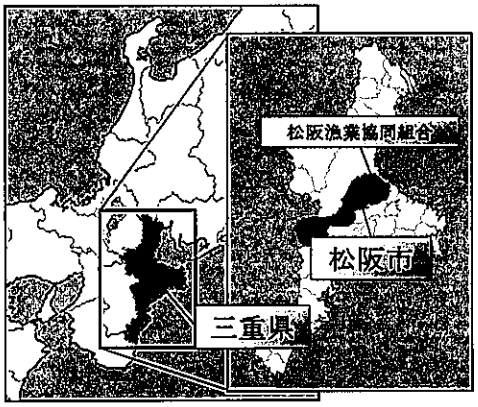

図 1．松阪市の位置

2．漁業の概要

松阪漁業協同組合は、平成 14 年 6 月に市内 3 漁協と、旧三雲町の 1 漁協が合併した漁協である。組合員数は平成 22 年度末現在、正 185 名、准 240 名の計 425 名である。主な漁業種類は、伊勢湾の穏やかな浅場域で行われるアサリなどの採貝漁業、アオノリ養殖、クロノリ養殖などで、アオノリ養殖については、全国でも有数の産地となっている。漁協の漁獲高は、アサリなどの水揚げに左右されるが、平均すると年間約 7 億円となっている（図 2）。

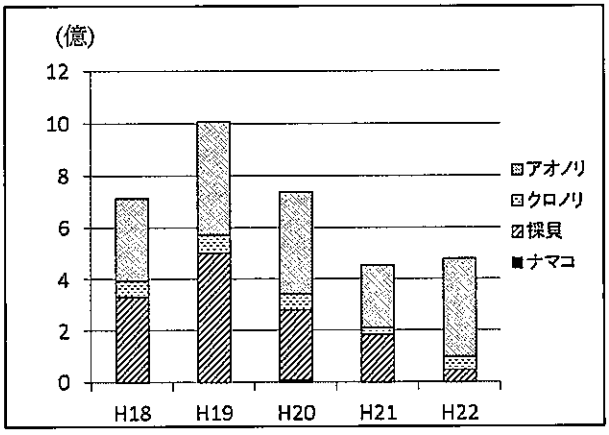

図 2．松阪漁協の直近 5 年の水揚高

3．研究グループの組織と運営

松阪漁協女性部は、現在 90 名の部員が所属している。三重県漁協女性部連合会に所属しており、毎年開催される全体研修会や伊勢湾地区ブロック研修会などへ参加し、知識習得、情報交換に努めている（写真 1）。

松阪漁協女性部独自の活動としては、私たちの生活を支える伊勢湾を綺麗にするための海浜清掃の実施、港内美化活動、地域のイベント等へ料理提供等を行っている（写真 2）。

写真 1. 伊勢湾地区ブロック研修会

写真 2. 地域イベント(松阪牛祭り)

4．研究・実践活動の取り組み課題選定の動機

私は、松阪漁協女性部に 34 年在席してきた。松阪漁協女性部は、発足当時から漁家経営安定のための共済加入の推進、購買・販売などの漁協事業に協力してきたが、活動の回数は、増減を繰り返しつつも年々縮小してきた。また、部員の情報交換の場としての集まりも減少してきた。

このままでは、松阪漁協女性部が廃れてしまい、漁村の元気もなくなってしまうと危機感を抱いた私と前部長は、自分から何か提案をして活動の活発化につなげられないか考えることにした。

三重県では、漁業者の高齢化に伴い、各浜の漁協女性部も高齢化が目立ってきている。松阪漁協女性部においても、平均年齢は約 67 歳となっている(図 3)。これは、地区の若い漁業者の減少に伴うお嫁さんの減少や、女性の生活スタイルの変化や、漁業収入の基礎となる魚価が年々低下してきていることにより、漁業外の仕事をする女性が増え、若手女性の活動参加が少なくなったためである。

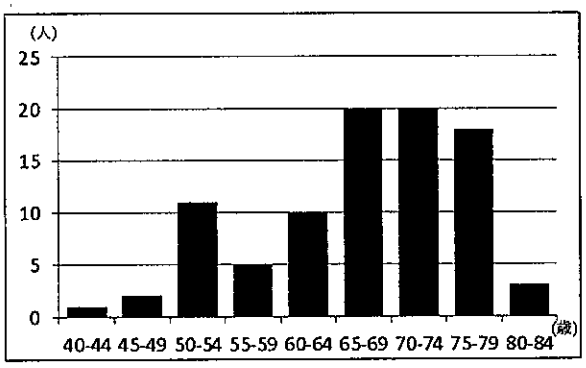

図 3. 松阪漁協女性部の年齢構成

このような社会環境や、生活環境の変化により、漁村の女性部を取り巻く状況は厳しく変化している。それに対応した新たな活動を推進するため、松阪漁協女性部の問題点を改善しようと取り組んだのでその活動について報告する。

5．研究・実践活動の状況及び成果

女性部の活動を推進するため、以下の 4 つのことを取り組んだ。

①停滞しない活動の実践「部長交代が活動の切れ目？」

女性部では様々な方が部長となり、活動されてきた。そして部長が交代した年の活

動があまり活発でない場合があることに気づいた。部長が変わることで、部員への部長の考えが浸透するまでに時間がかかり、活動が停滞すると判断した私と前部長は、平成19年の役員会において女性部を引っ張っていく部長、副部長はやる気のある人を据えることと、やる気のある後任が育つまでは、部長と副部長となった2名が、役員改選ごとに役を交互に入れ替わり運営を続けることで、女性部活動の低迷を防ぐことを提案した。そして、まずは提案をした自分たちからと、進んで部長と副部長の職を引き受け、その時私は副部長となった。そして、平成22年から部長となり、活動を推進してきた。

②活動低迷は、やらされ感にあり！

女性部の役員は、10に分けられた地区から、3年交代で選出される。しかし、高齢の部員が、年齢を理由にして積極的な活動ができないと言われることから、若い部員に役員の声がかかるようになった。これにより、役員の間にやらされ感が出てきており、積極的な活動推進につながらないことがわかった。「このままでは松阪漁協の女性部が廃れてしまう！」と危機感を持った私は、各地区を回り、積極的に活動に参加していただける方を説得し、役員になっていただくことで、前向きな活動に取り組む組織づくりを構築した。

③ジェネレーションギャップ

女性部の高齢化は、部員の世代交代が行われないと、年々進んでいく。若い世代は、漁業収入のみでは生計が立てられずパートに出ていたり、子育てが忙しかったりと、女性部になかなか入らない。これは、漁業に自らが直接携わっていないことも影響していると思う。また、私たちと世代がひと回りも違ったりするので、この輪に入りづらいのかもしれない。それでも私たちの活動を見に来て欲しいし、近年魚食離れが進んでいると言われている世代の意見を聞くことで、魚食を推進するためのヒントが得られるかもしれないと考え、入部せずとも女性部がイベント参加をした折には、積極的に声をかけて活動を見に来てもらうように心がけている。

④漁村の女性としてできること

私は、夫とともにアサリやアオノリの漁に出ており、二人で一生懸命獲った地元産の素晴らしい水産物が、安く取引されることが非常に悲しい。そして、魚価が安いことは、直接私たちの生活に影響する。このことは、女性部の中でも大きな問題であり、少しでも私たちの生活が良くなるため、何か良い方法はないかと考えていた。今までも、地域のイベントにアサリご飯などを提供していたが、「地元の水産物は美味しいんだ！」と、もっと、地元の水産物をＰＲしたいという気持ちが強くなってきた。

しかし、漁があるときは、私たち女性部員も漁に出ていて、活動に回す時間がなかなか確保できないことから、新たな取組を行うことができずにいた。

漁協へ相談したところ、近隣にある農業公園ベルファームで平成23年2月11～13日にイベントがあり、漁協としても、そこで松阪の水産物を販売することでそれらをアピールできるチャンスととらえていた。しかし、職員のみでは人数が少なく手をこ

まねいているところであった。地元の水産物をもっとアピールしたいという、女性部と漁協の思いが一緒であったことから話は進み、女性部がクロノリ、アオノリの販売、アオサ汁の振る舞いを担当することとなった。

前日から、販売用のアオノリ 300 パックを包装し、振る舞い用のアオサ汁 200 食分を用意し、3 日間にわたるイベントに参加した。初めての取り組みでうまくいくかどうか心配であったが、イベントに来ていただきアオサ汁を食べた方から、「美味しい！」「体が温まるわ」と非常に好評であった(写真 3, 4)。

この 3 日間は雪が舞うほど寒く、半屋外の会場での活動は大変であったが、今後も漁業者の妻として、また私自身漁業者としての目線で、地元水産物のアピールや、魚食普及を行いたいと考えている。

写真 3. ベルファームでの
地元水産物販売の様子

写真 4. 販売したアオノリ

6．波及効果

女性部の活動を円滑に行えるようにしたことで、他地区漁協女性部との交流に参加する役員が増加した。また、昨年の６月に、福井県漁協女性部連絡協議会の視察交流事業の受け入れを行い、意見交換を行った(写真 5)。この際、私や副部長だけでなく、役員にも出席してもらい、女性部の活動状況や、部内の状況などについて活発に意見を交換していただいた。ちょうどその時にアサリの入札が市場で行われており、福井県漁協女性連の方は入札方法の違いに驚いていた。このことをきっかけに、役員の中から「私たちも他の地区へ視察に行き、自分たちが当たり前のことが他では違うかもしれないから、学んでみては。」という声も聞こえるようになった。この想いを三重県漁協女性連へ伝えたところ、福井県漁協女性連の会員が所属する越前町漁協へ、三重県北部の４女性部で構成されている、北部地区女性部連合会として視察を行うこととなった。視察時には、地元で漁獲された水産物を使ったレストラン経営や加工場の見学ができ、私たちも同じように地元の水産物をもっと消費者にＰＲできる存在になれるのではと感じた。また、そのような活動、取り組みを行っている女性部同士のつながりもできたことは非常に有意義であった。

私が会長となってから行っている活動の中で、ＪＡ女性部との交流がある(写真6)。農協の女性部活動は、私たちより一歩も二歩も先を走っている。女性の地位向上として家族協定の推進や、自分たちの生産物を直販市場で販売する等、私たちから見れば、あまりに進み過ぎており、見習う前に自分たちが反省すべき点が多いと感じている。漁村はまだ男性中心の世界であり、女性の地位は依然として低いと感じている。しかし、アオノリの時期で猫の手も借りたい状況であるにかかわらず、今回のこの発表を笑顔で送り出してくれた夫や、女性部の活動に理解ある男性もみえるので、この輪を広げて地道な活動を続けていきたいと思う。

写真5. 福井県漁協女性連との交流

写真6. ＪＡ松阪との交流

７．今後の課題や計画と問題点

私はまだ、就任して２年の新米部長であるが、これらの取り組みを行ってきたことや、活動に賛同してくれる役員もできたことで、今後様々な活動ができるものと確信している。また、後任には現副部長が控えていることと、今度は私が副部長として支援を行い、途切れることのない女性部活動を行えるため、安心して活動を行えるようになった。しかし、今後の部長、副部長となる後継者を育てることを忘れず、活動を続けていきたいと考えている。

これらの活動を行ってきたが、女性部の高齢化問題や若い方の女性部離れは解決しておらず、地道に声かけを行い参加していただける若い女性を増やし、解決していきたいと考えている。そして、現在はイベント等への参加のみであるが、漁村を盛り上げるため、漁協や青壮年部と協力して楽しく、自分たちの生活に支障をきたさない範囲で活動を行っていきたいと思っている。これらの活動が実を結ぶことで、もっと大きな活動を行いたいという声も上がるかもしれない。今後も県内一漁協への合併など、私たちの力が及ばないところでの大きな変革の波が私たち女性部に降りかかると思うが、女性部一丸となって活動を推進していきたいと考えている。